

# ニッポン ドクター和の 臨終図巻

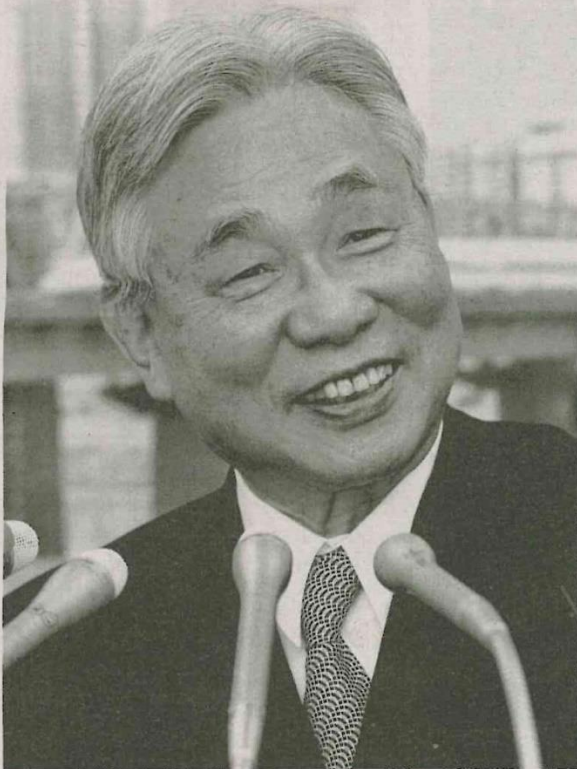


コロナ禍により疲弊する日本経済。そんな中、世界経済フォーラムが発表した2021年版旅行・観光ランキングで、日本が初の第1位となったのは、久しぶりに明るいニュースです。

日本が1位になった理由には、交通の利便性が大きく寄与したといわれています。僕も今まで世界各国を旅行してきましたが、日本の航空や鉄道の利便性は、別格だと感じます。台風や地震が多くあるのに、これだけ時間に正確な交通網を持った国は他にないでしょう。特に、新幹線の正確さは素晴らしいです。

今、東京―新大阪間は、のぞみに乗れば2時間30分を切ります。東京駅の最終は21時24分。ギリギリまで東京で仕事をしてそれに乗れば、日付が変わる前に大阪まで戻れます。新幹線のおかげで僕は、東京日帰り、その夜に患者

257 JR東海名誉会長 葛西敬之



# 世界に誇る交通網を築く

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

さんのお看取りができません。それを叶えてくれたのが、JR東海さんです。

そのJR東海の名誉会長で、かつて社長や会長を歴任し、旧国鉄の分割民営化に尽力、保守派の論客としても活躍した葛西敬之氏

が、5月25日に亡くなりました。享年81。死因は、間質性肺炎との発表です。

間質性肺炎とは、皆さんもよくわからない病気かもしれません。肺炎と名がつくものの、いわゆる肺炎とはまったく異なる病態といっているでしょう。

通常の肺炎は、気管支もしくは肺胞の炎症であって、多くは細菌やウイルスの感染によるものです。早期発見であれば、抗生物質の投与によって完全治癒が可能です。

しかし間質性肺炎は、関節リウマチなどに併発するものと原因不明のものがあり、一般の肺炎とは異なった経過を示します。進行すると、肺胞と毛細血管の間の壁(肺胞壁)が厚くなり、肺全体が縮んでしまつたため、酸素をつまみ取り込めず酸素不足に陥ります。進行して呼吸困難を訴えると酸素吸入を要します。高齢になると風邪やストレスなどをきっかけに、急性増悪するケースがよくあります。

呼吸困難が生じて初めて、間質性肺炎だと診断される場合が多く、残念ながら完治させる薬はありません。炎症を抑える目的で、副腎皮質ステロイドや免疫抑制薬が使われています。

葛西氏への追悼の言葉は、政財界から多く寄せられており、「早すぎる」というコメントもちらほら目にしました。リニアの成功を見届けずに逝ったことが早い、という意味なのでしょうが、しかし、日本男性の平均寿命は81.64歳。ほぼ生涯現役で、この国の経済に十二分に貢献された人生だとお見受けしました。